

琉球使節と朝鮮通信使

西羽 晃

寛延元(1748)年に5月に朝鮮通信使、同年12月に琉球使節が江戸まで来ています。いずれも徳川家重の将軍就任祝いのためです。両方とも同じような形態ですが、様子が違っている部分を書き出します。

朝鮮通信使は(朝) 琉球使節は(琉)と書きます。

1. 人数 (朝) 477人、正使 洪啓禧 (琉) 98人、正使 具志川王子
※ 人数が5倍近く違う
2. 付添 (朝) 対馬藩 (琉) 薩摩藩 ※ 小藩である対馬藩には負担は大きいと思われる
3. 行程 (朝) 大坂まで船、大坂泊—枚方—淀泊—京都泊—大津—守山泊—八幡—彦根泊—今須—大垣泊—墨俣—名古屋泊—鳴海—岡崎泊—赤坂—吉田(今の豊橋)泊—荒井—浜松泊—江戸着5月21日 京都で泊まっている。 京都—浜松 7日間
(琉) 大坂まで船、大坂泊—伏見—大津泊—草津—守山泊—武佐—愛知川泊—高宮—番場泊—今須—垂井泊—墨俣—萩原泊—清須—宮泊—池鯉鮒—岡崎泊—藤川—御油泊—吉田—白須賀泊—荒井休—浜松泊—江戸着12月11日 大津—浜松 10日間
京都は通らない。
※ 朝鮮通信使は多人数なのに、急ぎペースである
4. 木曾三川 (朝) 揖斐・長良・小熊川・木曾川は船橋
(琉) 揖斐・長良・木曾川は船渡し、小熊川のみ船橋
※ 朝鮮通信使は多人数なので、大きな川を渡るのに船橋(船を並べてその上に板を置いた)を架けたが、琉球使節は少ないので船で渡り、小さな川のみ船橋を架けた
5. 宿泊先 (朝) 各宿場の主として寺院、江戸では本願寺
彦根・宗安寺、名古屋・性高院、吉田・梧真寺
(琉) 各宿場の本陣、江戸では薩摩藩下屋敷(芝)
※ やはり人数に多少によるのであろう

6. 江戸での接遇

●朝鮮通信使

5月21日 江戸着

6月1日 登城 将軍(家重) 謁見 大広間にて。国書・献上品を贈呈。
西ノ丸にて大御所(吉宗) 謁見。

6月3日 吹上にて 将軍・大御所・大納言(家治) 戯馬を見る

10日 上野東照宮にて 歩射・騎射 奉納

13日 江戸出発 (江戸滞在 22日)

●琉球使節

12月11日 江戸着

15日 登城 将軍(家重) 謁見 大広間にて。国書・献上品を贈呈。
西ノ丸にて大御所(吉宗) 謁見。

18日 奏楽・御暇 大広間にて将軍・大御所

21日 御三家訪問

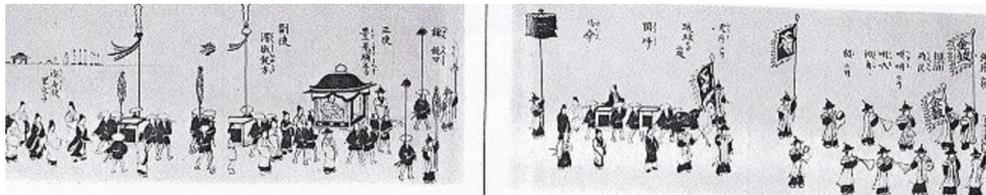
27日 江戸出発 (江戸滞在 16日)

※ ほぼ同じようであるが、朝鮮通信使が長いのは交流が多かったからであろうか

6. 服装

㊦ 朝鮮の官服

㊧ 中国風の官服



「琉球人来朝行列図」(『稲沢市史』より、原本は名古屋市鶴舞中央図書館所蔵写本)

7. 将軍への献上品

朝鮮国王から 人参、白綿、虎皮、豹皮、真墨、鞍馬など。

琉球国王から 御馬、寿帯香、芭蕉布、久米嶋布、泡盛酒など。

※ それぞれの特産品

本稿は「尾野山隋風 24 2019.11.01」に書いた「琉球使節と朝鮮通信使」に加筆修正したものです。